

# 養育院板橋本院建設と 東上線仮側線敷設

櫻園通信 40. 平成 28 年 7 月

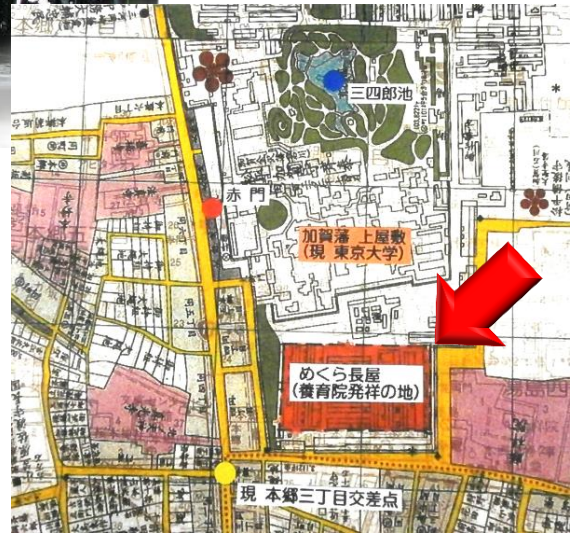
東京都健康長寿医療センター

養育院・渋沢記念コーナー

連絡先：老年学情報センター

## 玉越慶弘

養育院・渋沢記念コーナー維持ボランティア



【創業時代】  
養育院の創設は、明治五年に貧窮者を収容保護する施設とし文京区本郷に在った元加賀藩上屋敷の「めくら長屋」（維新政府・文部省管轄）を使用し設立されたのが始まりである。

その後、上野・神田・本所を転々とし、二四年間の創業時代を経緯して、この施設も狭隘となり、年苑増加する貧窮者などの収容が仕切れない状況になった。

【発展時代】  
各方面に敷地を探し、明治二九年に本院を小石川区大塚辻町の地（現 大塚病院）を選び移転することになった。

以前の本所長岡町の施設と比べると、敷地が約三、四倍と

拡がり、多大な貢献を社会に与える発展時代であったが、二〇余年の諸社会情勢から新しい運営展開が求められていた。

院長渋沢栄一翁は、大正一年一月二六日に挙行された養育院創立五〇周年記念式典において、次のように述べられている。

「大塚本院は段々狭くなりましたと同時に、其附近が繁華の場所となりましたため、窮民等の収容所としては、適当なると思われなくなってきました。」「建物の腐朽が甚しく、修理にむしろ経費を要する……」「市内の人口増加に伴って、住宅難の声も聞かされる時、広大な面積を市内繁華な地に救済施設を存するのは必ずしも策を得たことではなく、むしろ市民公共のために開放……」などが



新天地への理由であるといわれている。

【養育院本院 板橋へ】  
新しく展開する先として、北都島郡板橋町で明治四一・四二年に開設されていた板橋競馬場の跡地と周辺で広大（約二七、〇〇坪）な敷地の取得が見込まれ、移転計画が進められた。板橋分院（現 仲町）は、大正三年一〇月には竣工し、開院式が行われている。

大正一〇年一月より本院敷地の造成工事を開始。大正一年に本院建設の起工式が挙行された。建設工事は、入札の結果、清水組（清水建設）が落札請負（工費八四億円）、大正一二年三月には、遅れている付帯設備工事を除き、建物は完成された。

## ■ 東上線仮側線

板橋本院建設の状況を記した資料は少ないが、その過程で、東上線より【仮側線】を敷設して、工事現場へ引き込み、建設資材の運搬が行われている。

## 現代に残る仮側線敷設の記録

### ①側線敷設認可

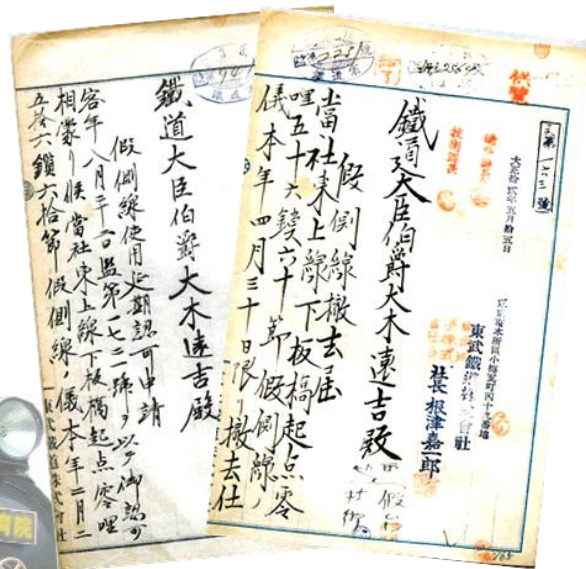
申請：大正 11.8.11 認可：大正 11.8.22  
 (板橋本院建設起工 大正 11.7.15)

### ②仮側線の使用延期

申請：大正 12.3.6 認可：大正 12.3.16

### ③仮側線の撤去

撤去届：大正 12.5.15 側線撤去：大正 12.4.30  
 (大部分完成 大正 12.3)



## ■ 仮側線の線路はどこに？

仮側線（引き込み線）は敷地の西側を通る東上線の大山駅付近（当時はまだ未設置 駅開設は昭和6年）より、線路の東側沿いにある路地を経て建設用地（現 交番）に達していた。

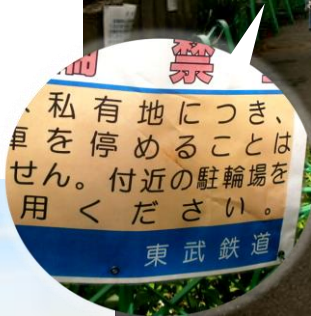
東京法務局の不動産登記によると、この路地所有が、半分ほど東武鉄道の私有地である。このことから、引き込み線の経路が推測できる。



東上線を走っていた  
B1型蒸気機関車

大正 12 年頃は、東上線はまだ単線運転で、電化されるのは昭和 4 年。当時はまだ畑の広がる長閑な風景。

蒸気機関車（B1 型）が煙を吐きながら走るのは、幻想的な一面でしたでしょう。



### 参考資料

養育院六十年史 養育院八十年史 養育院百年史  
 養育院百年史年表稿 その他 養育院月報